

# まってるすけ高柳

～高柳交流観光施設春の活動報告 & 計画(後編)～

☆門出ふるさと村組合／交流人口から関係人口へ

■門出ふるさと村組合はかやぶきの宿を拠点に小学生から大学生・家族連れの方々に、田植えや稲刈り・ブナ林の散策・紙すきなどの体験を提供し、地域の魅力を知っていただき、交流の拡大に努めてきた。かやぶきの宿は組合長小林康生のキャラクターとお母さん方のごつつおの評判がよく、年間1,200～1,400人のお客様から利用していただいています。そんな活動の延長線上にある新しい話題を紹介します。

## ■門出ファンクラブとの交流

○平成27年(2015年)新潟産業大学の故広川俊男さんから「門出はおもしろそうな活動をしている。応援団を作ってサポートしたい。地域になるべく迷惑をかけずに“勝手に応援団”という姿勢で。同級生には“矢代隆義”がいるし。」とのお話があり、戸惑いながらも受けることに。



○翌年から毎年春に総会・秋に交流会と素晴らしい経歴をお持ちの方々が、毎回30人くらいが門出においていただき、会員同士の交流はもちろん高柳の人も仲間になって地域の宝を案内しながら楽しい時間を過ごしています。

○今まで地域からの提案ができなかったのが、地域を応援していただく具体的な活動は行われてこなかったが、今年10月の門出の秋祭りに「出店を手伝おうか」との声があり、盛り上げていただくことに期待しています。

## ■カヤ集めの活動(作業+交流)

○かやぶきの宿の大きな魅力がかやぶき屋根のたたずまい。屋根を維持するためには毎年の補修を行わなければならない、材料の確保が必要です。

○長年カヤを寄付してくれた上越市のサポーターからのたくわえが無くなったことから、カヤの確保をイベントにしようと思いつきます。

○しかし経験のない我々世代。どんなものが自分で体験することに。春にカヤの頭を刈りそろえ、秋に葛のつるを引き抜き、雪降り前に刈り倒す。雪消えを待つカヤ起し(天地返し)、ハネスを飛ばして収納。何とかできそうなので、昨年11月に「かやぶき友の会」会員約100人に呼び掛け「カヤ刈りと交流会」、今年の5月に「カヤ始末と山菜を楽しむ交流会」を行い、それぞれ小学生を含めた25人ほどから参加いただき、汗をかき、会員同士の横の交流を行い、自分で採った山菜を味わってもらいました。

(裏面に続く)

